

CADPACCREATOR 2D Ver.21.0

新機能・追加機能 概要

■汎用機能

1. 新世代機能	2
2. 高解像度モニター対応	3
3. 連続出力 ドライバ選択	4
4. 連続出力 出力先フォルダ指定	4
5. DXF・DWG 入力 マルチテキスト	4
6. DXF・DWG 入力 マルチ引出線	5
7. DXF・DWG 出力 表示順序	5
8. DXF・DWG 出力 青枠内出力	5
9. ME10 入力	6
10. 寸法一括更新	6
11. 文字分解	6
12. 切断	6
13. グループ作成	6
14. システム設定・表示 ファイン表示	7
15. システム設定・色彩 参照ラバー	7
16. システム設定・検出 ハイライト表示	7
17. システム設定・キー定義 ダイレクトキー	7
18. ウィンドウ整列	8
19. 新元号対応	8
20. 2D/3D Interface	8

■機械オプション

21. 2010 注釈	9
-------------------	---

■ネットワークライセンス

22. 新サーバ winsock	9
------------------------	---

■その他のオプション

23. JIS 機械パーツ	10
24. SolidWorks インターフェース	10

Ver.21.0 新機能

CADPAC-CREATOR Ver.21.0 で追加・拡張された機能の概要をまとめます。
機能の詳細は、オンラインヘルプにてご確認ください。(Ver.20.0 からの差分です)

汎用機能

1. 新世代機能

従来の 2DCAD では困難だった「検図」、「部品バラシ」、「組付」が簡単に行える新機能です。

面図という概念を利用し、面図間の関係を利用して、関連線や検図機能を利用する事により正確な図面をスムーズに作成、修正することができます。

さらにこの機能で、組図から部品図へのバラシや、部品図を組図へ組付が行えます。部品図同士の穴の位置と規格のチェックもできるので、正確な組図の作成が可能になります。

従来の 2DCAD 正確な 2D 図面が描けているか、
熟練者でなければ分からない

- 構想組図からの部品バラシや再組付が大変
- 部品図同士の穴位置のチェックが大変
- 正確な組図が出来れば、製造現場での手戻りが減らせる

新世代

このような課題に『新世代』機能で 2D 作図に要していた工数を減らせます。

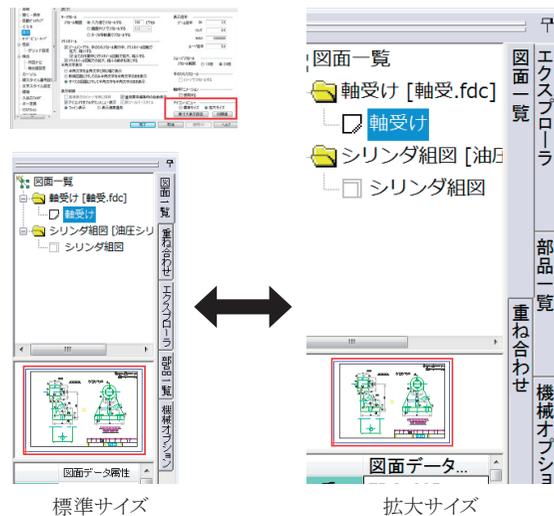
2. 高解像度モニター対応

3K や 4K の高解像度モニターを使用すると、右パネルや CSB などが解像度に準じるため小さく見え操作がしづらくなります。

[補助 / システム設定 - 表示] でアイコン・メニューのサイズを [拡大サイズ] に指定すると、下記項目のサイズを自動で大きくする (固定値で約 2 倍) ことができ、操作しやすくなります。

【本バージョンで新たに高解像度表示に対応した項目】

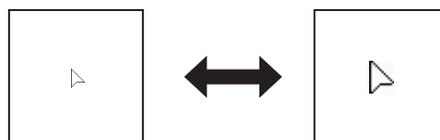
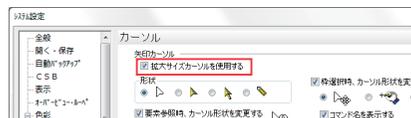
- ・ ツールビュー
- ・ シートタブ
- ・ 各種ガイドチップ (ダイナミックハイライト、ビジュアルマウス、マウスグリッド、変形 / 移動量、機械オプション / 属性表示など)
- ・ マウскарソル*



【以前のバージョンで既に対応済みの項目】

アイコンメニュー、プルダウンメニュー、右パネル、CSB、メッセージバー、右パネルの設定ボックス

* マウскарソルのサイズ変更は [補助 / システム設定 - カーソル] で設定します。「拡大サイズカーソルを使用する」を有効にすることで、縦横のサイズがそれぞれ 2 倍に拡大されます。



3. 連続出力 ドライバ選択

出力ドライバを選択できるプルダウンメニューを追加しました。[出図]コマンドのドライバ設定を参照し、リスト表示します。

「用紙ごとの機種」有効時は、その設定が優先され、プルダウンメニューは操作できなくなります。

[ファイル / 連続出力]

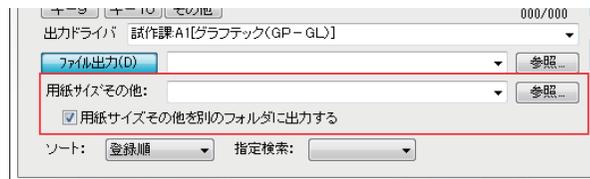


「用紙ごとの機種」有効時

4. 連続出力 出力先フォルダ指定

用紙サイズがその他（設定した用紙以外）のとき、別途出力先のフォルダを指定できるようになりました。

[ファイル / 連続出力]



5. DXF・DWG 入力 マルチテキスト

AutoCAD の改行されたマルチテキストを CADPAC の文字 BOX に変換し入力できるようになりました。

[ファイル / 外部入力 / DXF・DWG 入力]



6. DXF・DWG 入力
マルチ引出線

これまでマルチ引出線の線端形状はイメージに変換され入力されていましたが、CADPAC の線端形状として入力できるようになりました。
[ファイル / 外部入力 /DXF・DWG 出力]

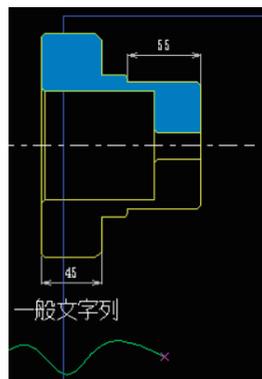
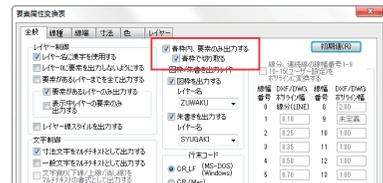
7. DXF・DWG 出力
表示順序

文字・寸法要素を前面に、また塗りつぶし要素を背面に、それぞれ表示順序を指定して出力できるようになりました。
塗りつぶし要素の下に文字や寸法が隠れてしまう現象を回避できます。
[ファイル / 外部入力 /DXF・DWG 出力]

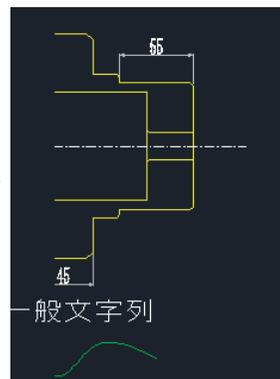


8. DXF・DWG 出力
青枠内出力

[変換条件設定 / 全般]の「青枠内、要素のみ出力する」と「青枠で切り取る」両方にチェックを入れると、本システムの作図エリアの青枠の外側にある要素を切り取って出力できるようになりました。
「青枠内、要素のみ出力する」のみにチェックの場合は青枠外にはみ出ている要素は出力されません。
[ファイル / 外部入力 /DXF・DWG 出力]



CADPAC (出力前)



AutoCAD (出力後)

9. ME10 入力

圧縮 MI 形式のデータを入力できるようになりました。
 [ファイル / 外部入力 / ME10 入力]

10. 寸法一括更新

寸法のスタイルを一括更新できる新コマンドです。
 現在対応している寸法は平行寸法とオフセット寸法になります。
 [作図 / 寸法 / 寸法一括更新]



11. 文字分解

文字分解の精度指定を 3 段階から 11 段階に拡張しました。これまでより細かい精度で分解が可能となりました。
 [作図 / 文字編集 / 文字分解]

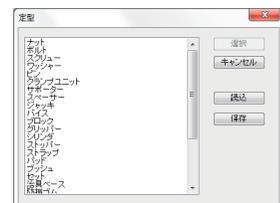
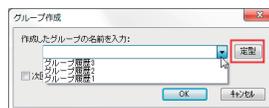


12. 切断

円・楕円要素を 2 点指示で切断出来るようになりました。
 [編集 / 変更 / 切断]

13. グループ作成

グループ作成時のグループ名入力ボックスがコンボボックスになり、入力履歴を保持できるようになりました。
 また、テキストファイルで作成したグループ名のリストを読み込み、[定型]から呼び出すことができるようになりました。
 [構成 / グループ / グループ作成]



14. システム設定・表示
ファイン表示

ファイン表示の図面処理速度が向上しました。
 大量のグループ要素及び寸法グループ要素が含まれている図面のズームイン・アウトのほか、ダイナミックハイライト及びび点検出の表示速度がアップしています。
 [補助 / システム設定 - 表示]

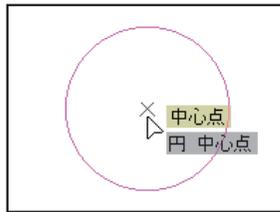
15. システム設定・色彩
参照ラバー

参照ラバーの表示色を変更できるようになりました。
 [補助 / システム設定 - 色彩]



16. システム設定・検出
ハイライト表示

端交点などににカーソルを合わせると、検出マーカとその関連要素がハイライト表示される設定が追加されました。このとき検出マーカは「×」形状になります。このマーカの色は変更することができます。
 [補助 / システム設定 - 検出]

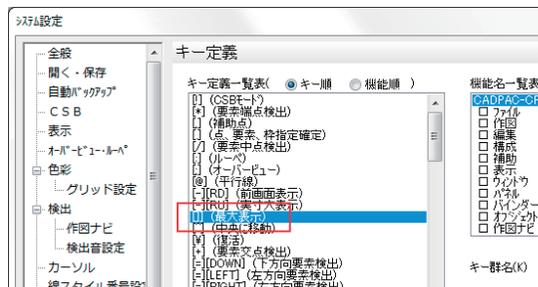


例：円の中心点を検出時、関連する円要素がハイライトされます。

17. システム設定・キー定義
ダイレクトキー

ダイレクトキー機能の初期設定が一部が変更になりました。
【変更前】
 [[]] キー：スムーズスクロール ON/OFF
【変更後】
 [[]] キー：最大表示

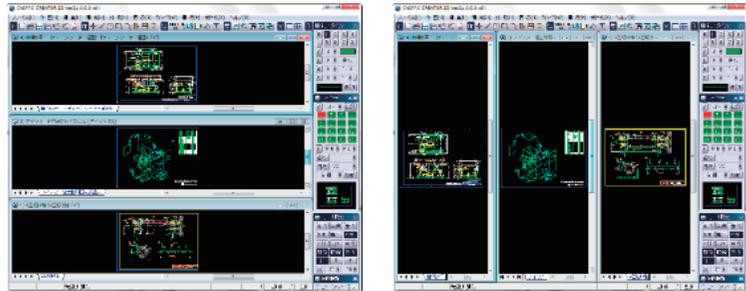
※更新インストール時は設定は以前のままです。
 [補助 / システム設定 - キー定義]



18. ウィンドウ整列

整列コマンドに「上下に並べて表示」、「左右に並べて表示」の2つのコマンドが追加されました。

[ウィンドウ / 上下に並べて整列][ウィンドウ / 左右に並べて整列]



上下に並べて整列

左右に並べて整列

19. 新元号対応

2019年5月1日に元号が「平成」から新元号に変更となる事に伴い、CADPAC上で表示される和暦について対応を行いました。改元前に見込まれる、Microsoftによる新元号対応アップデート以後、自動でCADPACも新元号に対応いたします。

20. 2D/3D Interface

2Dに転送した3Dの寸法を、2Dの寸法として扱えるようになりました。これにより、2D側で寸法変更などが行えるようになります。対応している寸法は、平行寸法、角度寸法、円寸法（半径寸法）、面取寸法です。

機械オプション

21. 2010 注釈

径取得時、[注釈 (種類)]、[呼び径]、[深さ]、[ピッチ (並目・細目)] の属性を取得できるようになりました。
 [専用 / 機械定型 3/2010 注釈]



ネットワークライセンス

22. 新サーバー Winsock

現在のサーバークライアント間の通信の仕組みは、Windows の MailSlot 機能をベースとしていますが、新サーバーは Winsock を使用して TCP/IP 通信を行います。変更にとまらぬ、ホスト名を NetBIOS 名だけでなく、FQDN 名や IP アドレスで指定できます。また、通信用のポート番号を指定する必要があります。ネットワークライセンスの構築方法やサーバークライアント間の通信データの内容に大きな変更はありません。

新旧サーバーを一つのマシンで同時に起動はできません。新旧どちらかのサーバーを起動するときは、稼働中のサービスを必ず停止→削除してから起動してください。また、持ち出しを行っている場合は、必ず返却後に停止→削除してください。ライセンスを持ち出している状態で新旧サーバの切り替えは行わないでください。

現在のサーバークライアント間の通信方式と、新たに用意されるサーバークライアント間の通信方式には互換性がなく、サーバー ⇄ クライアントの通信方式が一致しないと起動できません。旧クライアント (新サーバー非対応バージョンの CADPAC) を使い続けるためには現行方式の旧サーバーが必要となります。

その他のオプション

23. JIS 機械パーツ
部品ライブラリ

Ver.21.0用の最新部品ライブラリに変更されました。部品点数は65万点です。前バージョンリリース時点より、およそ1万点増加しています。保守期間中はPCに部品データをインストールせずに、オンラインでもご利用いただけます。

24. SolidWorks
インターフェース

SolidWorks2019に対応しました。